

CSK レポート

002

WINTER 2008

株主の皆様へ

2009年3月期 第2四半期決算報告 2008年4月1日～9月30日



CEOごあいさつ・決算報告に寄せて

「新たな成長を進めるために」



表紙の写真について

CSKグループは、社会に必要とされる新たなサービスを創造する企業グループを目指しています。

「お客様に本当に必要とされるサービスを提供したい」、そんな想いがCSKグループには溢れています。そして、この想いからグループの持つ多彩な才能のコラボレーションが生まれ、新たなサービスの創造につながっていくのです。

CONTENTS

CEOごあいさつ・決算報告に寄せて

新たな成長を進めるために

CSKホールディングス 代表取締役社長 福山 義人

1

2009年3月期 第2四半期決算報告

5

新連載

教えて CSKグループの事業

第1回「情報サービス（前編）」

情報社会の「見えない仕組み」づくり

10

あなたの身近な生活の中に

発見 CSKグループ

第2回「口座異常取引モニタリングシステム」

ITパワーで「振り込め詐欺」撲滅に挑む

12

CSKグループ「新鮮世代」のプロフィール

若き力

第2回 CSKシステムズ

「仕事を楽しんでいる自分がいる」

14

企業繁栄 徒然草

第62回「金に同じ」と書いて「銅」

ニュービジネスコンサルタント(株)代表取締役社長 梶谷通稔

16

CSK GROUP NEWS

18

証券系ビジネスにおける取り組み

CSK-IS「金融経済研究所」発足

CSKホールディングスがSR(社会的責任投資)構成銘柄に選定

CSRへの取り組みが高評価

CSKホールディングスのIRサイトがリニューアル

株主・投資家情報が見やすくなりました

20

会社の概要・株式事項

21

CEOごあいさつ・決算報告に寄せて

新たな 成長を進めるために



CSKホールディングス
代表取締役社長

福山 義人

株主の皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼を申し上げます。株主の皆様におかれましては、この度の業績予想の修正により、多大なご迷惑とご心配をおかけすることになり、心からお詫び申し上げます。ここに2009年3月期第2四半期(2008年4月1日～2008年9月30日)の当社グループの業績と今後の施策についてご報告申し上げます。皆様の深いご理解を賜るとともに、ごあいさつに代えさせていただきますと思います。

決算を踏まえた現状認識と今後の対応策

第2四半期決算の業績下方修正を踏まえ、現状認識と今後の対応策についてご説明いたします。

まず現状認識ですが、世界的な信用収縮による株式市況の低迷により、コスモ証券が業績不振となり、金融サービス事業において保有している有価証券の一部に評価減が発生しました。また、不動産関連ビジネスに対する金融機関の融資取り組み姿勢が急速に悪化し、不動産市場が大きく混乱したことから、保有している不動産案件の売却に遅れが生じております。そして、情報サービス事業において、上期の中盤あたりからIT投資の凍結やプロジェクト開始の延期、価格の引き下げなど、お客様側から要請が出てきた結果、検証サービスやテクニカルサポートの新規受注が伸び悩み始めるなどの影響が出てきており、この傾向は下期に向けてさらに強まってくると感じています。

これらを踏まえた今後の対応策についてご説明い

たします。

まず不動産証券化ビジネスについては、「回収を最優先とし、全保有案件を今期から来期にかけて売却」とするとともに「新規案件への投資を凍結」することを方針に掲げ、すでに活動を始めています。

コスモ証券については、従来からの強みであるリテール分野に経営資源を集中させることを決定しており、すでに引受部門や法人部門に関連する不採算事業から撤退または大幅な縮小を実施し、リテール営業の強化に向けた組織や人事体制、営業体制の改革を行っています。さらに、コスト削減による経営体質の強化も進めており、今期の販売管理費は前年比で約30億円強圧縮できる見通しです。このコスト削減については、今期だけに限らず来期以降も継続し、早期の黒字転換を目指していきます。

情報サービス事業については、収益確保に向けた営業強化とコスト削減に引き続き取り組んでいきます。

併せて、現在一部で発生している不採算プロジェクトについては、優先的に集中対応を行うと同時に、早期に発見する仕組みやモニタリング手法の見直しを実施していきます。

個人金融資産を活かすための手段と機会の提供

証券系ビジネスとしての取り組みについてご説明いたします。

今回の世界的な株安の局面で少し変動があったかもしれませんが、現在、日本の個人金融資産は約1,500兆円あるといわれています。この金融資産をいかに動かし、どう活用していくかということが、高齢化あるいは少子化といった日本の国が直面している問題を解決していく一つの手立てになっていくのではないかと考えています。今回のマーケット環境の激変を受け「貯蓄から投資へ」の流れは一時的に停滞しているかもしれませんが、中期的に見ればその流れは変わらないと認識しています。個人金融資産1,500兆円という資産を活用し、人々の生活を豊かにするとともに、これを活用する手段として、CSKグループの情報サービス、ならびに証券系ビジネスのノウハウやリソースなどを融合させた「証券総合プラットフォーム」を提供していきたいと考えています。

「証券総合プラットフォーム」として証券会社や地域金融機関などへのサービス提供機能を充実させるために、今年8月のコスモ証券完全子会社化実施を皮切りに、

CSK-IS金融経済研究所発足、CSK証券サービスの体制強化、CSKマーケティングへ教育研修機能統合を実施しました。さらに、CSK証券サービスへ証券BPO機能を統合、コスモ証券とCSK-RB証券の合併を予定しております。グループ各社が独自で伸ばしてきた強みやノウハウを融合するとともに、各社に分散・重複していた機能を統合、コストセンターであった機能をプロフィットセンター化することで、証券会社や地域金融機関などへのサービス提供機能の充実を図ってまいります。

地方銀行の証券子会社設立ニーズは非常に高まってきたと感じておりましたが、最近の市況低迷の影響もあり、経済情勢が落ち着くまでは当面様子を見ようという動きが一部に見られてきました。潜在的なニーズは間違いなく存在しておりますので、この間にCSKグループのサービス提供機能を充実させ、市況が好転した際には、より充実したサービスを武器に事業展開を加速させ、この証券総合プラットフォームが、CSKグループのサービスプロバイダー事業の代表的な事業モデルになると考えています。

情報サービス事業における サービスプロバイダーへの取り組み

情報サービス事業としての取り組みについてご説明いたします。

現在、金融業界においては、法制度改定や各種規制の変更が数多く行われています。CSKグループは金

融業界において、銀行・信託・生命保険・損害保険・クレジットカード・消費者金融など、多数の優良なお客を有しており、相対的に底堅いシステム需要が見込まれるとともに、システム老朽化に伴う大規模なシステム再構築案件を予定している先もいくつかあります。先行きの不透明感から、一部のお客様においてIT投資の削減や新規プロジェクトの凍結などが予想されますが、グループ一体となって戦略的な営業活動の推進や営業レビュー制度の充実を図り、確実な受注取り込みを目指していきます。

続きまして、サービスプロバイダー実現に向けた取り組みについてご説明いたします。前回のCSKレポートにおいて、「IT競争力の強化」としてニアショア(国内開発拠点)やオフショア(海外開発拠点)の活用などの生産性向上に向けた取り組みを行うとともに、「アセット(業界特化型資産)の構築や再利用」を推進していく方針であることをお伝えいたしました。オフショアやCSKグループの強みであるニアショアでのリモート開発については、協会社への発注から切り替えを行っており、今後活用が増加していく見込みです。アセット化については、教育機関向けの業務支援サービスや、損害保険業界向けの商品申込受付サービスの仕組みを異業種で再利用する試みなどが挙げられます。また、振り込め詐欺やマネーロンダリングに対応する「金融犯罪取引モニタリングサービス」においては、社会的ニーズから問い合わせが急増しており、金融業界向けの新聞

にセブン銀行向けの導入事例が掲載されるなど、金融機関からの注目も集まっております。

新たなサービスを創造し 提供し続ける企業グループへ

われわれは「社会が必要とする新たなサービスを創造し提供し続ける企業グループ」を目指していきます。今までは、お客様的一部分である情報システム部門のニーズを満たしていれば、成長を続けることができましたが、現状の社会のニーズは多様化・複雑化しており、従来のような取り組みはITのコモディティ化という価格競争にさらされております。そのような中われわれは、お客様のお客様であるエンドユーザーや社会全体のニーズを満たす「サービスプロバイダー型事業」を推進していきたいと考えております。当面は、情報サービスおよび証券系ビジネスを事業の二つの柱としますが、われわれが目指す企業グループを実現するには、情報サービスを中心とした新たな取り組みの中から、証券系ビジネスのような「新しいサービスプロバイダー型事業」を創出していくことが必要と感じており、その実現に向け積極的に取り組んでいきます。

中間配当の見送りについて

最後に、中間配当の見送り、および期末配当予想の修正についてご説明いたします。

当社は、連結業績、事業投資、有利子負債、社会

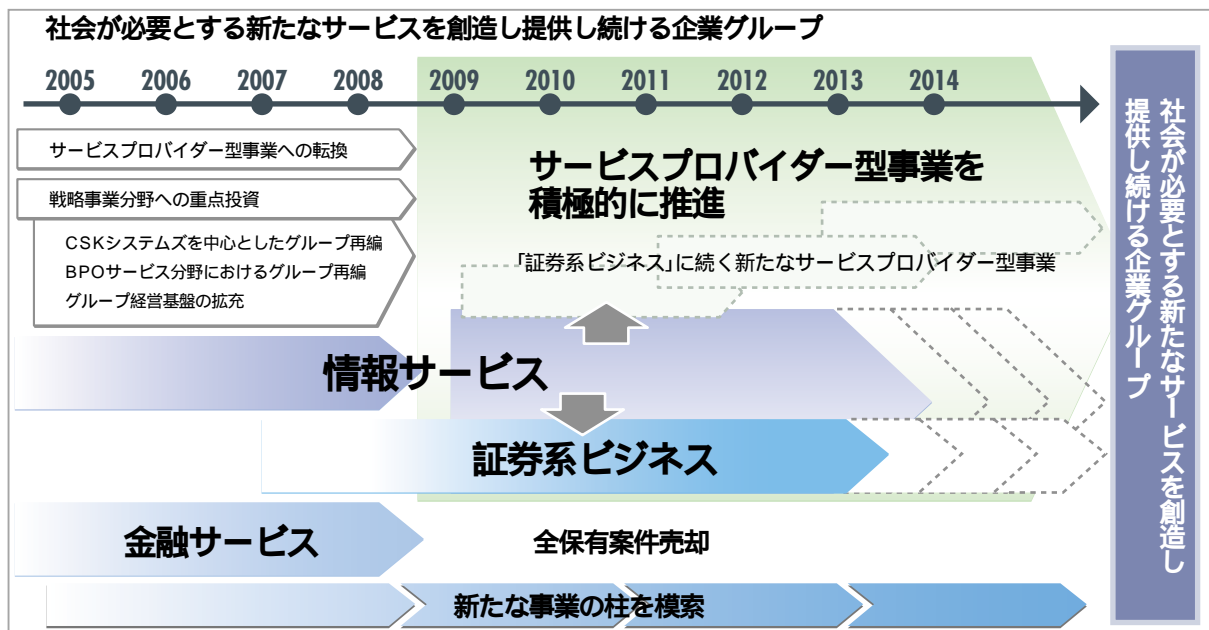
経済動向を勘案した株主資本配当率をベースにした株主還元方針を採用しています。今期におきましても、中間配当金20円、期末配当金20円を予定していました。しかしながら、今期の連結業績において多額の損失を計上するに至り、加えて、景況感が急速に悪化する中、今後の見通しについても慎重な見極めが必要と判断したことから、誠に遺憾ながら中間配当の実施は見送ることとさせていただきました。また、期末配当につきましては、現時点で未定とし、実施の可否および配当金額につきましては、今後の状況を見極め、

改めて公表させていただきます。

株主の皆様には大変申し訳なく存じますが、何とぞご理解賜りますようお願い申し上げます。

今期はこのような赤字決算となりますが、来期には黒字転換させるべく、具体的な施策を推進していきます。CSKホールディングスの取締役・執行役員・監査役の報酬減額についてはすでに発表していますが、他にも投資案件について再検討を行い、縮小もしくは凍結の実施、全社的なコスト削減の徹底などにより、来期黒字転換できる下地を作りあげたいと考えています。

CSKグループの目指すべき方向性

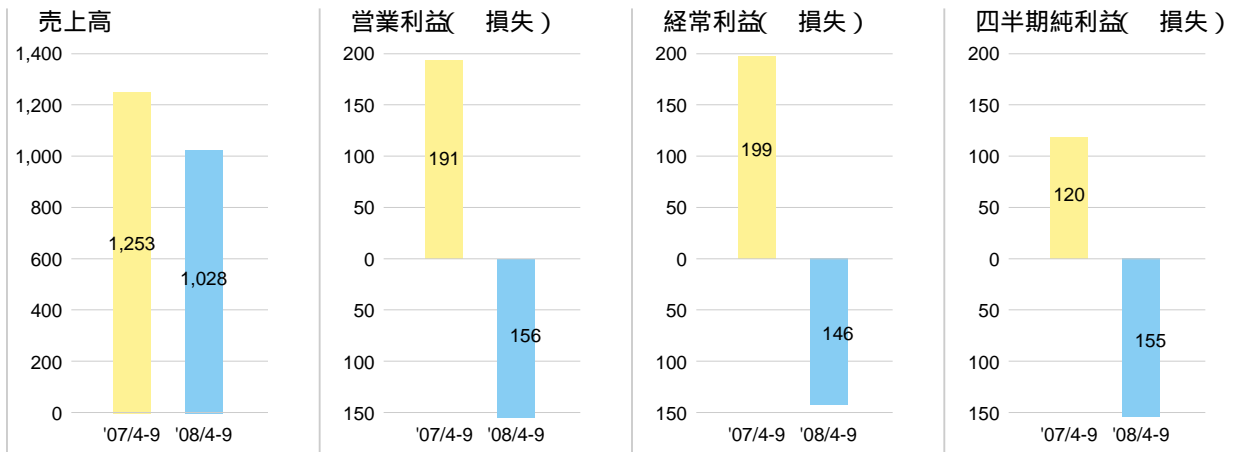


業績サマリー

【第2四半期決算のポイント】

金融機関の大型再構築プロジェクトを中心にシステム開発が好調に推移する一方、市況悪化の影響による金融サービス事業・証券事業の業績低迷により減収減益。

業績2カ年推移 (単位:億円)



売上高

情報サービス事業における金融・保険業界向けのシステム開発が好調に推移する一方、金融サービス事業において前年上期に大型の投資案件の精算があったこと、証券事業において株式市況低迷の影響を受けたことにより減収となりました。

営業利益(損失)

情報サービス事業においてサービスプロバイダーに向けた先行投資や、金融サービス事業において前年上期に大型の投資案件の精算があったこと、証券事業における株式市況低迷の影響を受けたことにより営業損失となりました。

経常利益(損失)

営業損失に営業外収益および費用の要因が加わり、経常損失となりました。

四半期純利益(損失)

経常損失の影響に加え、事業用資産の減損や証券事業再構築にかかる損失を計上したことなどの影響により、四半期純損失となりました。

(単位:億円)

	2007/4-9	2008/4-9	前年同期比
売上高	1,253	1,028	224
営業利益(損失)	191	156	348
営業利益率	15.3%		
経常利益(損失)	199	146	346
四半期純利益(損失)	120	155	276

(単位:円)

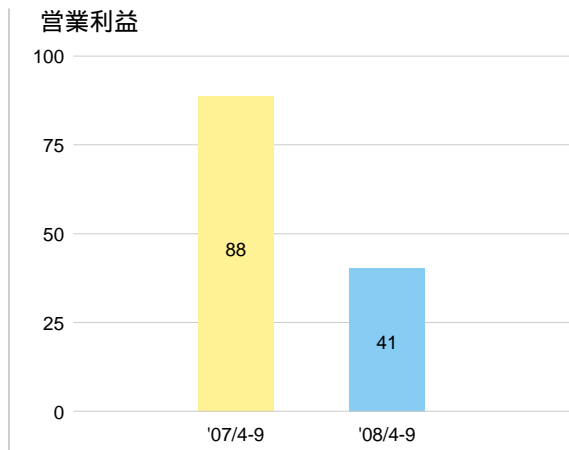
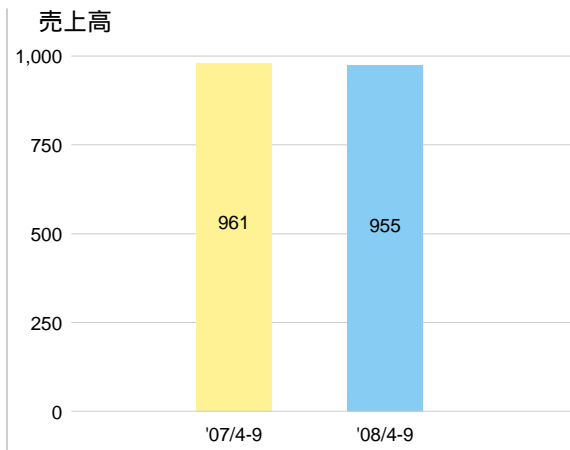
	2007/4-9	2008/4-9
1株当たり利益(損失)	163.89	210.30
1株当たり純資産	2,543.30	2,095.58

事業分野別の状況 1 情報サービス事業

【情報サービス事業のポイント】

売上高は前年と同水準となるも、新規事業投資やデータセンターにかかる減価償却費の増加に加え、ビジネスサービスの不振により減収減益。

情報サービス事業2カ年推移 (単位:億円)



売上高

テクノロジーサービスにおいて、金融・保険向けシステム開発が好調に推移する一方、ビジネスサービスにおいて、市況悪化やメーカーのコスト削減・製品開発投資抑制の影響を受け、証券向けASP、テクニカルサポート、製品検証を中心に減収となりました。

営業利益

テクノロジーサービスにおいて、新規事業投資やデータセンター新設に伴う減価償却費の増加、不採算プロジェクトの影響により減益。またビジネスサービスにおいては、採用拡大や営業力強化の費用が増加し減益となりました。

CSKグループの
情報サービス事業

テクノロジーサービス システム開発・運用などのIT関連サービス

ビジネスサービス コンタクトセンター、BPO、検証などのIT利用サービス

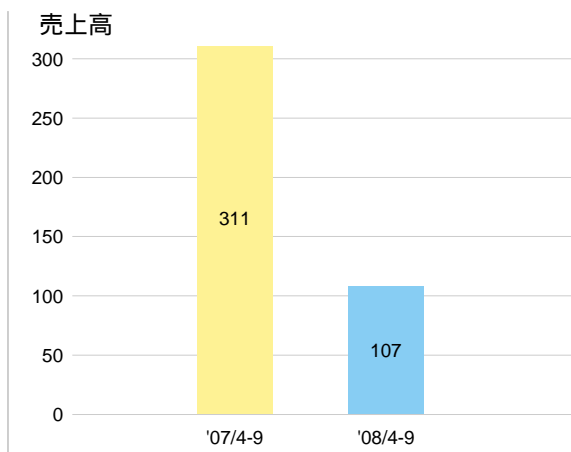
上記グラフには消去又は全社は含まれていません。

事業分野別の状況2 金融サービス関連事業

【金融サービス関連事業のポイント】

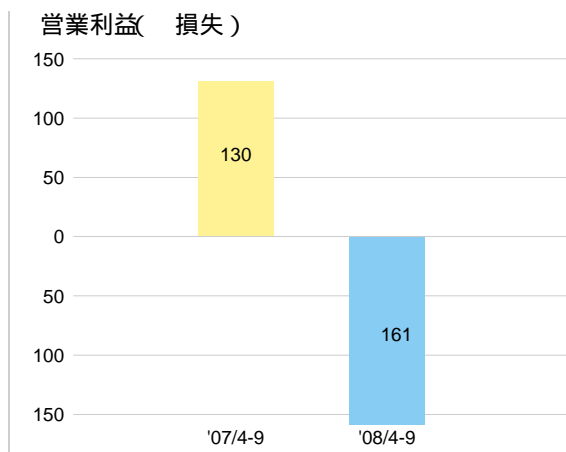
金融サービス事業において、世界的な信用収縮の影響により、不動産証券化事業の進捗に遅れが発生。市場の不透明感を勘案し、案件の売却に注力。証券事業においては、市況の影響により業績が低迷。経営体質の強化を目指し、コスト削減を徹底。

金融サービス関連事業2カ年推移 (単位:億円)



売上高

金融サービス事業において、上期に予定していた収益の取り込みが遅延したこと、また証券事業において、株式市況の低迷による影響を受けたことにより減収となりました。



営業利益

金融サービス事業において、市況悪化による影響で有価証券や保有不動産の評価損が発生したこと、また証券事業において、コスト削減を徹底しましたが、株式市況の低迷による影響をカバーできず大幅な減益となりました。

CSKグループの 金融サービス 関連事業

金融サービス事業	不動産の証券化、ベンチャーキャピタルなど
証券事業	リテール分野を中心にした証券事業
プリペイドカード事業	QUOカードの発行・決済など

上記グラフには消去又は全社は含まれていません。

貸借対照表およびキャッシュ・フロー計算書

(単位:億円)

科目	2008/3	2008/9
流動資産	4,363	4,216
現金及び預金	640	514
受取手形及び売掛金	310	262
金融サービス運用資産	1,984	1,983
証券関連資産	858	787
その他	570	667
固定資産	1,136	1,145
有形固定資産	343	352
無形固定資産	88	159
投資その他の資産	704	632
資産合計	5,500	5,361

流動負債	2,840	2,833
有利子負債(短期)	835	1,026
カード預かり金	465	479
金融サービス負債	443	317
証券関連負債	660	645
その他	435	364
固定負債	805	794
有利子負債(長期)	768	768
その他	36	25
負債合計	3,645	3,628
株主資本	1,624	1,696
評価・換算差額等	10	14
少数株主持分	220	51
純資産合計	1,854	1,733
負債純資産合計	5,500	5,361

固定負債その他には、証券事業にかかる特別法上の準備金を含んでいます。

(単位:億円)

科目	2007/4-9	2008/4-9
営業活動による キャッシュ・フロー	69	252
投資活動による キャッシュ・フロー	174	55
財務活動による キャッシュ・フロー	15	178
現金及び現金同等物の 四半期末残高	794	462

Point

【固定資産】

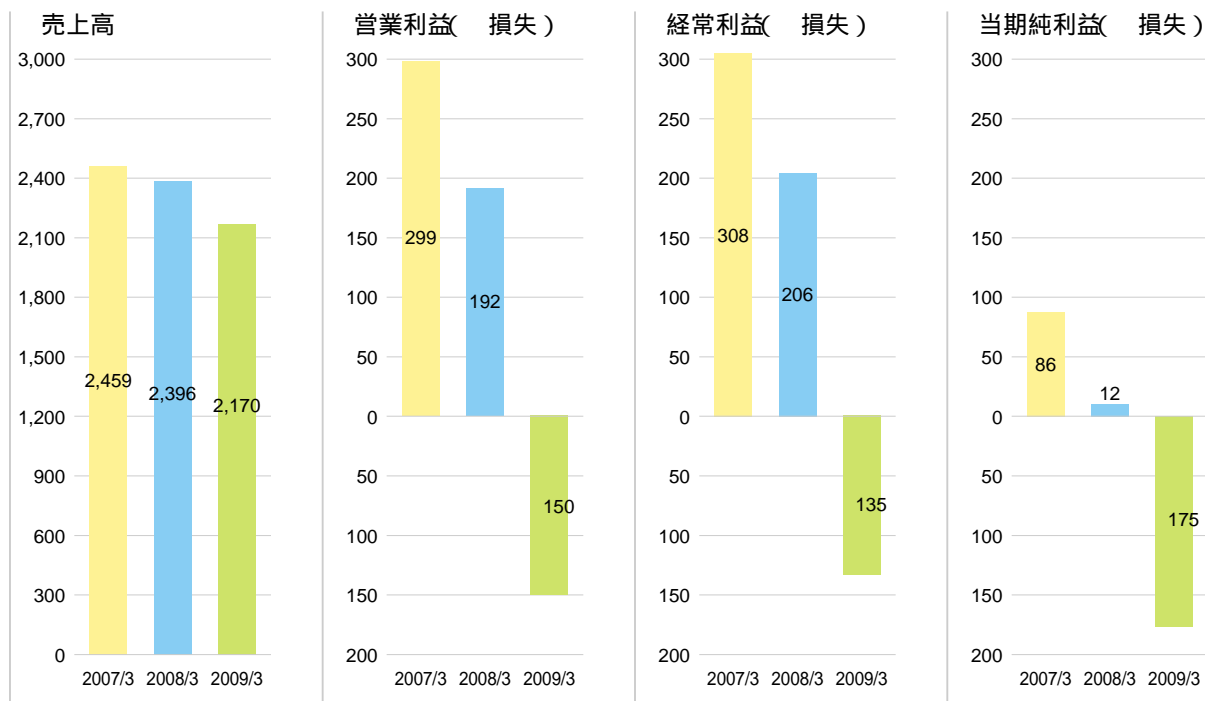
2008年8月1日付のコスモ証券完全子会社化に伴うのれんなどにより、無形固定資産が増加。また、本社ビル建設にかかる建設仮勘定などの増加により有形固定資産が増加する一方で、投資有価証券の時価の下落などにより、投資その他の資産が減少し、固定資産全体で8億円増加しました。

2009年3月期 通期業績予想

【業績予想のポイント】

下期以降、企業のIT・設備投資に一層の鈍化が懸念されること、金融機関における信用収縮や株式市況の低迷・株価下落など景況感是不透明な状況が続くと想定。金融サービス事業においては、不動産案件の売却を一段と推し進め、証券事業においては経営体質の強化を目指したコスト削減を徹底していくことで、来期黒字転換に向けた下地を作り上げていきます。

通期業績予想 (単位:億円)





教えて

CSKグループの事業

第1回 「情報サービス」(前編)

情報社会の“見えない仕組み”づくり

情報システムと社会

何から何まで情報システムにつながっている

情報システムとはどのようなものを指すのでしょうか。「見たことがない」という方が多いでしょうが、極めて身近なところにあります。銀行のATMでお金を引き出したり、インターネットで天気予報を調べたり、携帯電話で新幹線の座席を予約したりと、何かの行動を起こしたとき、必ず情報システムが動いています。また、自動車のように自動的に燃料噴射のタイミングを制御して燃費を向上させる、車室内を適正な温度分布に保

CSKグループは、産業全体、社会全体の持続的発展を支え、社会に必要な新たなサービスを創造するサービスプロバイダー企業グループを目指しています。今回は、事業の柱の一つである「情報サービス」に関連して、情報システムと社会の関連性や、情報サービス提供会社がどのような仕事をしているかを中心に紹介していきます。

つなど、さまざまな機能が組み込みソフトウェアで制御されているものもあります。

「ユビキタス」という言葉を新聞や雑誌で見たことがあると思います。「目には見えないが情報ネットワークが張り巡らされ、いつでもどこでも意識せずに人々の生活を支えている」という意味です。今社会はそのようなユビキタス社会に急速に向かいつつあり、情報システムに対する需要がますます大きくなるとともに、その機能も複雑化しているのです。

情報サービス提供会社の仕事

“情報システム”のプロ「システムインテグレーター」

こうした情報システムのプロとして企業の課題を理解し、それらを解決する“仕組み”の提案や構築・運用を行うのが情報サービス提供会社です。大型コンピュータやパソコンなどの機器、業務適用ソフトウェア、ネットワークなどを統合(インテグレート)して「情報システム一式」としてお客様に提供するため、システムインテグレーターとも呼ばれています。

一般企業に情報システムが入り始めたのは1980年



代で、そのころは財務や経理という内部業務が主体でした。人が手作業で行っていた事務処理を情報システムで置き換え、費用を削減することが目的です。企業が大きく業績を伸ばしていた時代で、人手不足であったこともあり、一斉に大企業が情報システムの導入を進めました。

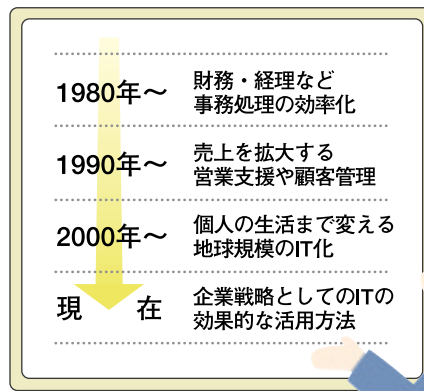
1990年代になると、業務の置き換えはほぼ終了し、情報システムに求められるものは変わりました。売上を拡大させる営業支援や顧客管理のシステムが普及してきたのです。

システム開発は、企業の注文をそのままカタチにするだけではうまくいきません。例えば「20坪ばかりの土地に、10部屋の家を建てたい」という要望があったとします。注文どおりに設計して家を建てることは可能ですが、それでは部屋が狭すぎて住みづらい空間になってしまいます。社員が使うシステムでこのようなことをすれば会社の業務は円滑に進みません。システムインテグレーターは高い技術力を持っていることはもちろん、深い業務知識を持ってお客様の立場で考え抜き、本当に効果的・効率的なシステムを提案することが求められているのです。

企業のニーズは、情報システムを「つくる」から「効果的な活用方法」へ

2000年以降、ITはネットワークの広がりにより、企業活動だけでなく個人の生活空間にまで入り込み、さらには自動車や携帯電話を含む情報機器まで行きわたることで、地球規模のインフラストラクチャー（社会的基盤）となりました。ITがインフラ化したことにより、企業のニーズはITそのものから、「ITと業務をどのように

■ 情報システムを取り巻く社会ニーズの変遷



融合させれば、既存のやり方を大きく超える生産性を実現できるのか」「圧倒的な優位性を構築できる差別化されたビジネスモデルを確立することができるのか」など、より経営戦略に密着した領域にまで範囲が広がっています。

CSKグループならではの情報サービスとは？

このような企業のニーズの変化に対応できるシステムインテグレーターは限られています。なぜなら、企業の高度化するニーズに対応するには高い技術力はもとより業務に関する深い知識が必要となるからです。CSKグループは長年にわたって培ってきた技術のみならず、さまざまなサービス提供を通じて蓄積した業界や業務に関する知識やノウハウを持っており、これらを組み合わせて企業のニーズに合わせたサービスを提供する事が可能となっています。

今回は、CSKグループの情報サービスにおける強みについてより具体的に紹介します。

発見 CSKグループ

身近な生活に視点を置いて、CSKグループの活動ぶりを紹介する本コーナー。
今回は、近年深刻な社会問題となっている「振り込め詐欺」への対策にまつわるお話です。

ますます深刻化する「振り込め詐欺」

「オレだよ、オレ」えっ、ちゃん？」。電話口で巧みに親族などを装い、現金を預金口座に振り込ませる通称「オレオレ詐欺」。ここ数年、お年寄りを中心に被害報告が後を絶たない状況が続いています。最近では、郵便や電子メールで虚偽の利用料金などを請求する「架空請求詐欺」や、融資の勧誘文書を送って申込者から保証金をだまし取る「融資保証金詐欺」、税金の還付を受けるための手続きと偽って現金を振り込ませる「還付金詐欺」など、「振り込め詐欺」の手口はますます多様化しています。

被害総額も甚大で、過去4年間を振り返ると、認知された事件だけでも毎年約250億円に上っています。2007年には、裁判を経ずに被害者を簡易に救済する措置として「振り込め詐欺救済法」も施行されたものの、被害の発生自体は止まるところを知らず、2008年は上半期だけで早くも190億円に達する勢いです。

こうした中、警察庁と各金融機関は協力して、ATM

の警備体制強化や行内での各種啓発ポスター掲示など、振り込め詐欺防止・撲滅のためのさまざまな対策を講じてきました。しかしながら「(だまされている)被害者が自らの意志で送金を行ってしまう」という振り込め詐欺特有の事情もあり、これまでのところ大きな防止効果を上げるには至っていません。

「情報システム」の力で振り込め詐欺を未然防止

時代を少しさかのぼると、振り込め詐欺の発生以前にも、世の中にはクレジットカードの偽造や不正使用による犯罪が横行していました。この分野の対策用システム開発に長年携わってきたCSKグループでは「クレジットカード業界で培った貴重な経験やノウハウを、銀行のキャッシュカード犯罪の防止にもぜひ活かしたい」と考え、2005年、口座異常取引モニタリングシステムバンクセイバー「Bank Savior」が誕生しました。

当初Bank Saviorは、ATMなどでの偽造キャッシュカードの不正使用検知を利用目的としていましたが、近年

第2回 「口座異常取引モニタリングシステム」 ITパワーで「振り込め詐欺」撲滅に挑む

の振り込み詐欺の深刻化に伴い、その未然防止対策として大きな期待が寄せられるようになりました。例えば Bank Savior では「5年間まったく使われていなかった口座に、ある日突然方々から振り込みがあった」という取引を検知すると、あらかじめ登録しておいた「不正パターン」(取引の金額や日時、場所などを諸条件として設定した情報)に照らして、その取引の「異常性」を判定することができます。「不正パターン」は専門知識なしで編集や追加が可能で、ユーザー(金融機関)自身が状況に応じて最適な条件を設定できる点が大きな特長です。

安全で安心な社会をしっかりと守っていききたい

情報システム化がますます進む現代社会。日々の「安全で安心」な生活を築く上で、われわれIT企業が担う責

任は大変重大と言えます。「社会とともに犯罪と戦っていく」そんな強い使命感を胸に、CSKグループでは今後も社会に貢献できる情報サービスづくりに取り組んでいく考えです。



グループ企業紹介「CSKシステムズ」

常にお客様の業務視点に立ち、経営戦略に密着した業務プロセス変革やビジネスモデル創造を支援

近年、お客様のITサービスに対するニーズは大きく変化しています。私たちが提供するサービスも従来はITそのものが中心でしたが、現在はお客様のビジネスプロセスの変革や新しいビジネスモデルの構築など経営課題や戦略に密着したものに変化しています。

CSKシステムズは、お客様の経営課題をしっかりと受け止め、お客様の業務プロセスそのものを担う業務アウトソーシング・サービス(BPO)やITアウトソーシング・サービス(ITO)など、CSKグループ各社の専門性の高いサービスを組み合わせ、お客様にとって必要不

可欠なサービスを提供します。CSKシステムズは「お客様の経営に貢献し続ける」サービスプロバイダーを目指した積極的な取り組みを進めています。





若き力

本コーナーでは毎号CSKグループ各社のフレッシュな若手社員にフォーカスを当て、彼らの仕事ぶりや目指す社員像、将来の夢などを紹介していきます。

第2回 CSKシステムズ 「仕事を楽しんでいる自分がある」

「人と人」を「技術」でつなぐ喜び

小林 春日君とは同じ「通信グループ」ですね。もうじき入社して2年、今の部署には慣れましたか？

春日 1年目よりはだいぶ(笑)。今はとにかく経験を積むことが大事だと思って頑張っています。

小林 私の時も、入社3カ月後には通信グループに配属されて、ほとんどゼロからのスタートだった。もともと人が好きなので、人と人をつなぐ通信系システムの開発に関われたことは本当に良かった。携帯電話のシステム開発や新しいソリューションの提案はとてやり

がいがある。担当したシステムが実際に使われているのを初めて見た時は感動したなあ。

春日 僕も通信グループに来て、最先端の技術に携われて本当に良かったです。小林さんの今の仕事は？

小林 大手通信会社のメール配信システムのプロジェクト。今はそのリーダーを務めているの。システム全体を理解して、過去の経験を基に提案ができるようになったところから仕事が多くなった。

春日 通信は常に新しいものづくりに関わって楽しい半面、「産みの苦しき」もあるのでは？

小林 新しいソリューション提案のために、常にいろいろなサービスを考えるのは苦しい作業だけど、完成し

て実際に使われる喜びを味わうために頑張っている。以前コアな技術開発をしていたころはミスを重ねて落ち込んだこともあったけど、今プロジェクトリーダーの立場になってその時の失敗が生きている。いろいろな予測を立てて先回りできるようになった

し、トラブル時にも「よし、何とかしよう!」と前向きに捉えて何度も壁を越えてきた。春日君もこれからいろいろ



CSKシステムズ
通信グループ第二開発部
主務
小林敬子

2001年入社。携帯電話など通信分野で複数のプロジェクトリーダーを歴任。仕事のストレス解消法は「夫との仕事トーク」

るな壁に直面しても、絶対うろたえちゃだめよ(笑)。

春日 分かりました(笑)。僕の方は今、通信会社の業務支援プロジェクトで必死に勉強中です。小林さんのように仕事を楽しめるようになるのはもう少し先かな。

小林 大丈夫。ある時、ふと仕事を楽しんでいる自分に気付くから(笑)。

勤続年数、理系・文系、性別は一切不問

春日 その時を楽しみにしています(笑)。失敗を怖がっていたら前には進めないのでからね。この会社には勤続年数、理系・文系にかかわらず手を挙げれば何でもやらせてもらえる社風がありますし。

小林 それが強みだし魅力だよね。理系出身でもお客様との交渉力に優れた人もいるし、文系出身の技術のスペシャリストもいる。

春日 うちの会社は、理系と文系の特性をクロスオーバーさせてバランスの取れた人材に育てるのが上手。

小林 その陰にはCSKグループの「学ぶ社風」がある。私も文系出身だから、最初は開発の仕事が不安だったけど、技術に詳しい先輩に教わりながらそれを払拭していった。文系出身者だからこそ積極的に新しいプロジェクトに挑戦していきたい。

春日 そういえば、うちの会社って小林さんのような女性のプロジェクトリーダーが多いですよね。

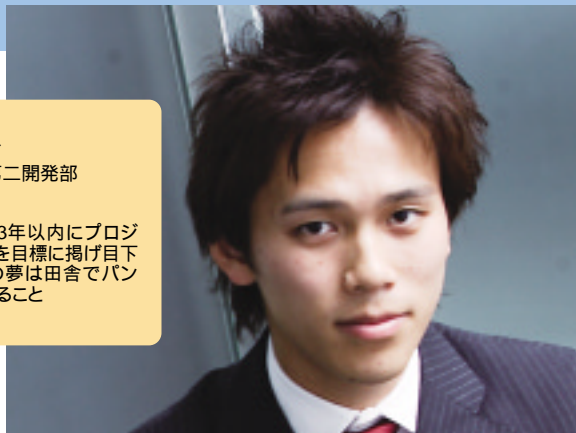
小林 技術に自信がある人は「自分のやり方」で突き進んでしまうことも多い。いろいろな人の意見を聞いて柔軟に対応できるのは案外女性の方かもね。

春日 しかも、タフな女性が多い気がします(笑)。

CSKシステムズ
通信グループ第二開発部

春日 峻

2007年入社。「3年以内にプロジェクトリーダー」を目標に掲げ目下奮闘中。将来の夢は田舎でパンカフェを経営すること



小林 私が今のプロジェクトに入った時のリーダーも女性で、非常に柔軟でタフな人だったな。

「技術のスペシャリスト」としての矜持を胸に

春日 タフと言えば、以前システムを提供しているお客様の会社を先輩と訪問した時、そこで先輩がお客様と言い合いになったことがあるんです。

小林 原因は？

春日 システムに関するお客様からのご要望に対して、その先輩が「それは、必要ありません」ときっぱり。理由と代替案をお伝えしたんですが、そこからお客様と言い合いになってしまい……。その場にすごい緊張が走りましたが、それでも先輩は決してひるみませんでした。本当に良いシステムを提供するために真剣に取り組んでいることが伝わってきて、強い感銘を受けました。

小林 その先輩はしっかりとした技術の裏付けがあったからこそお客様のために喧嘩したんだと思う。春日君は良い先輩と仕事ができ幸せだね。私たちの使命は「技術のスペシャリスト」として、本当に最適なものをお客様に提供し続けること。そのプライドは大切にしていましょうね。

徒然草

企業繁栄

「金と同じ」と書いて「銅」

梶谷通稔

連載 第62回

オリンピックの意義

こしばらくイチローに焦点を当てて、懸案の「謎解き」を進めてきていますが、本年は五輪の年であったことから、少々目をそちらのほうに向けてみます。

年々派手になり、多大な金額をかける五輪に対して廃止論を唱える人もいますが、長い下積みのおかげで栄冠に輝く選手の経てきた過程は多くの少年少女たちを励まし、また必ず壁や障害にぶつかり苦難を乗り越えていかなければならぬ多くの人々の人生に投影される形で勇気と感動を与えることなどから、五輪はそれなりに意義あるものと思います。

その中で今回、谷亮子選手を取り上げてみますが、なぜ彼女なのか。それは五輪出場回数が5回、つまり体力消耗の激しいスポーツの中で、日本レベルを少なくとも20年は維持しているという点からで、そこには体力とともに精神力もまた不可欠であり、それがどこから来るのかを見ていけば、ご参考になるところなど出てくると思われるからです。

幼少の頃の自転車事件

お兄ちゃんが子供自転車を乗り回しているのを見た3歳の彼女が、三輪車なんかではなく自分も同じものをと主張、根負けした親が補助輪付き自転車を与えますが、それでも補助輪を外せと聞かない彼女は、最後に補助輪を外してもらい、親の見守りの中で擦り傷だらけになりながらとうとうその日のうちに一人で走れるようになったのです。その事実を、後に母親が振り返って、「我が子の柔道の練習にかけた熱意や集中力、ガンバリズムなどを、その強い性格の原点として思い出す」と語っています。

“母さん、学校で「前へならえ！」ばすると、亮子はいつも両手を腰に当てただけと〜。1回くらい両手を前に伸ばしたいけん”とは、いつも最前列に並ばされる小さな小学校2年のときの言葉ですが、お兄ちゃんの通う道場で、女の子

が男の子を投げ飛ばすのを見て“ワーツ、カッコいい、私も投げしてみたい”と思ったのがきっかけで、柔道の道に入ったのがこの2年生のときです。当初反対し、どうせ三日坊主で止めるだろうと、高をくくっていた親も驚くその後の熱意は次の通りです。

道場の師範の「いいか、亮子、亮子は身体が小さいから、人の3倍練習しなければ人並みになれないんだよ。練習、練習。1日休むと、それを取り返すのに3日かかるんだよ。だから、休んじやいけないよ」の言葉に、台風のときも一人で出かけ、また人の3倍やるには、人が寝ているときもやらねばならないと、毎朝6時に起き、足を丈夫にするため海辺の砂地を1時間走るのですが、これは朝だけに限らずまた一時的なものではないのです。

学校から帰った3時半からが自由時間で、近所の子供たちと遊んでいても必ず5時半には家に帰り、軽い食事を取って6時から9時過ぎまで道場通い、家に帰り着くのが夜10時ころで風呂の後に本格的な夜食、そして宿題などを済ませて眠りに就くのが12時を過ぎるという日を、実に、小学2年から高校3年までの11年間、上京して大学に入るまで毎日続けたのです。道場の休みは元旦一日だけで、土、日、祭日など休日もなく、1年364日道場に通り通したわけです。

金色に見えた銅メダル

このような努力の下、公式の試合で活躍するようになっていくわけですが、彼女の言葉「毎日がいいときばかりではありません、今日くらいは練習をしなくてもよからう、今日はちょっと練習をしたくないな、と思うような日があります。それは誰にでもあると思います。でもそういうときこそ、もし今日が本番だったらと問いかけるのです。ここでもう一踏ん張りしよう、ここで頑張ることが勝負の分かれ目なんだと。そして練習でテーピングをするときや準備体操をするときから、今日は試合なんだという段取りをして、一本目は一回戦、二本目になったら二回戦なんだと、そういう感覚を養いながら毎日の練習に取り組んできました」と、その心構えを語っています。

また「これまでを振り返ってみると、目標というのがものすごい力を与えてくれるんだな、とつくづく感じます。先生や親から与えられた目標だったら、頑張っている途中のどこかで妥協してしまうと思うんです。それが自分の本当に叶えたい夢や目標だと、きつい苦しい場面に遭遇しても、その経験によって一回りも二回りも大きくなっていく自分を、練習中にすごく感じるんです。神様は皆それぞれに可能性のある才能を分け与えていると思いますが、私が柔道を通し

て強く学んだことは、その才能には努力しなければ、決してめぐり合うことができないんだということでした。柔道をあと何年続けられるかわからない。でも保証がないからこそ継続して努力もするし、夢も持つのだと思います。本当の柔道の試合は1日だけで、その日にチャンピオンは決まりますが、私はそれ以外の364日もずっとチャンピオンでありたい。そのために、誰も見ていなくて努力を常に積んでいく人間でいたいのです」とは、シドニー五輪で金を取った後でのインタビュー談話です。

結婚、そして母となっても「育児を柔道の、柔道を育児の言い訳にしない」と、真夜中に泣く子を母乳で育てながら、昼間は独自の練習です。仰向けになって足の上に子供を乗せ、手で支えながらの腹筋運動、抱っこしながらのスクワット、背中に乗せて腕立て伏せなど。強化合宿で他の選手が練習の合間にぐったりしている中でも、子供の世話をし、また家庭でのこともしっかりやっているのを見てきた夫は「子育て中心の生活に追われながら、決して弱音を

吐かずに練習に打ち込む姿にパワーをもらっていたのは、近くで見ていた僕だけではないはずです。目標にしていたメダルの色は違ったけれど、僕には金色に輝いて見えます」と、今回の北京での銅メダルを評していますが、それは夫だけの印象ではなかったはずです。

多くの若いお母さんたちが賞賛する中で、中にはマスコミの影響もあってか、母や妻をアピールしすぎるとの感を抱く主婦もいるようですが、幼少から今日までの彼女と同じような努力体験をしている人ならば、少なくともそんな感はあるのではないでしょう。

「一本勝ち」を重視する従来の日本柔道に対して、相手の力を利用し「返し」を重視する西欧式JUDOの違いが、北京五輪の日本選手の成果に影響を与えたものの、彼女のこれまでの足跡には多く学ぶものがあるのではないのでしょうか。

参考資料

『亮子、起きんしゃい “YAWARAちゃん”と一緒に歩いてきた、母の思い、子への愛』田村和代著 / 日本文化出版) NHK・民放インタビュー



梶谷通稔(かじたに みちし)

早稲田大学理工学部卒業後、日本IBM入社。1993年 日本を含む全アジア及び豪州地区を統括するIBMのビジネス・エグゼクティブ。1996年 ニュービジネスコンサルタント(株)設立、代表取締役社長に。日本IBM GBS 顧問業務。さらに現在は日本経営士協会 公認経営士、東北芸術工科大学 大学院客員教授として、講演や執筆活動にも奔走中。「成功者の共通資質と成功への分岐点」を著した『企業進化論』、『続・企業進化論』(日刊工業新聞社刊)はベストセラー。『すべてが師 - マネジメント考』、『地頭力 - ビル・ゲイツの面接試験問題』などを日本IBM他ホームページに好評連載している。

証券系ビジネスにおける取り組み

- CSK-IS「金融経済研究所」発足 -

C SKグループは現在、グループにおける証券系ビジネスを推進する体制が整いつつあることから、「証券系ビジネス」を本格的な事業の柱とすべく取り組みを進めています。その一環として、地域金融機関の経

営サポート機能と証券リサーチ機能を持った「金融経済研究所」が株式会社CSK-IS内に発足しました。金融経済動向の調査、コンサルティングなどを通じて地域金融機関の経営サポートに関するサービスを提供するとともに、

証券会社やその他の金融機関、法人・個人のお客様に対してアナリストレポートの提供やセミナーの開催などを通じて、独立機関としての優位性を活かした投資・経済情報を提供します。

証券系ビジネスについて

CSKグループは証券系ビジネスとして、証券業、投資信託委託業、商品投資顧問業、証券リサーチ、プライベート・エクイティをはじめ、証券システム開発・運用、証券システムASP、証券事務BPOなどさまざまなサービスを提供しています。これらのサービスをトータルで推進するとともに、お客様の新たなニーズに対応していきながら新たなマーケットを創出していきます。

CSK-ISについて

株式会社CSK-IS(CSK Institute for Sustainability, Ltd.)は、「サステナビリティの時代に求められるものは何か」をテーマにした研究活動を通じて、世の中への提言、人材の育成、新しいサービスの創造を推進する総合的な研究所です。

CSK GROUP NEWS #002

CSKホールディングスがSR(社会的責任投資)構成銘柄に選定 - CSRへの取り組みが高評価 -

近年、投資信託の運用にあたっては、従来の財務分析による投資基準のみならず、社会貢献に対する取り組みを評価基準とする「社会的責任投資(Socially Responsible Investment)」に注目が集まっています。

クホルダーとの信頼関係を常に重視し、透明性の高い経営、健全な事業活動や社会貢献を通じて社会に対する責任と義務を果たしつつ、社会全体のさらなる発展に貢献していきたいと考え、取り組みを続けています。

取り組みが高く評価された結果、CSKホールディングスはFTSE4Good Global Index、MS-SRI(モーニングスター社会的責任投資株価指数)の2つのSRIインデックスの組み入れ銘柄として採用されています。

CSKグループは、すべてのステー

CSKグループにおけるCSRへの取

FTSE4Good Global Index

英国のFTSE社¹が定める社会的責任投資の代表的な指数。この指数は、世界23カ国の約2,400社にのぼる企業を対象に、「環境」「社会」「人権」の3つの側面から評価されるものであり、企業の社会的責任に関心を寄せる投資家の投資選択基準の1つになっています。CSKホールディングスは、「FTSE4 Good Global Index」に2004年9月より連続して選ばれています。

[1] FTSE社：英国のフィナンシャル・タイムズ社とロンドン証券取引所の共同出資により設立された、株式・債券などの代表指数の開発・計算・管理を行う世界屈指の専門機関。



FTSE4Good

MS-SRI(モーニングスター社会的責任投資株価指数)

モーニングスター株式会社が国内上場企業の中から社会性に優れた企業と評価する150社を選定し、その株価を指数化した国内初の社会的責任投資株価指数です。CSKホールディングスは、2008年9月より選定されています。



SR(社会的責任投資)とは

Socially Responsible Investmentの略。従来型の財務分析による投資基準に加え、法令順守や雇用問題、人権問題、消費者対応、社会や地域への貢献などの社会・倫理面および環境面から、企業を評価・選別し、安定的な収益を目指す投資手法。

株主・投資家情報が見やすくなりました



株主・投資家情報

<http://www.csk.com/ir/index.html>

「株主・投資家情報」をリニューアルしました。掲載情報を整理するとともに、デザインも一新し、これまでより見やすく使いやすいIRサイトとなりました。今後も引き続き、株主・投資家の皆様へより早く詳細なIR情報を提供するため、インターネットを活用したIR活動を推進し、より多くの株主・投資家の皆様にCSKグループをご理解いただけるよう努めていきます。

個人投資家の皆様へ

<http://www.csk.com/ir/individual/index.html>

個人投資家の皆様に、CSKグループを分かりやすくご理解いただくための情報をまとめて掲載しています。CSKグループの概要や経営戦略、その他必要な情報を取得しやすくなり、個人投資家の皆様にとって使いやすいIRサイトになっています。また、CSKグループの情報誌やアニュアルレポートなどが、最新のものからバックナンバーまで検索しやすくなりました。ぜひご活用ください。



会社の概要

会社の概要 (2008年9月30日現在)

商号	株式会社CSKホールディングス
設立	1968年10月7日 (登記上1951年2月7日)
資本金	732億円
株式市場	東京証券取引所市場第一部上場 (証券コード: 9737)
本社所在地	〒107-0062 東京都港区南青山二丁目26番1号 TEL: 03-6438-3901(代)

役員 (2008年9月30日現在)

取締役会長兼 取締役会議長 ^{*1}	青園 雅紘	常務執行役員	新堀 義之
取締役社長 ^{*1}	福山 義人	常務執行役員	田村 拓
取締役副社長 ^{*1}	鈴木 孝博	執行役員	加藤 隆哉
取締役	鈴木 孝博	執行役員	唐笠 弘
取締役 ^{*2}	広瀬 省三	執行役員	佐藤 泰広
取締役 ^{*2}	奥島 孝康	執行役員	堤 智章
常勤監査役 ^{*3}	東 敬司	執行役員	清水 康司
常勤監査役 ^{*3}	石原 正之		
監査役 ^{*3}	峯岸 芳幸		
監査役 ^{*3}	田中 克郎		

*1 代表取締役

*2 社外取締役

*3 社外監査役

グループ会社一覧 (2008年9月30日現在)

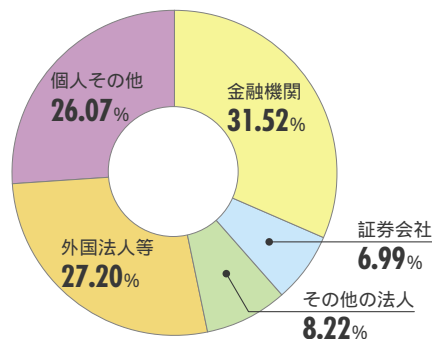
株式会社 CSKシステムズ	株式会社 CSKコミュニケーションズ	コスモ証券 株式会社
株式会社 CSKシステムズ西日本	株式会社 福井CSK	CSK-RB証券 株式会社
株式会社 CSKシステムズ中部	株式会社 島根CSK	株式会社 CSK証券サービス
株式会社 JIEC	株式会社 岩手CSK	CSKベンチャーキャピタル 株式会社
株式会社 CSIソリューションズ	株式会社 大分CSK	CSKプリンシパルズ 株式会社
株式会社 CSK Winテクノロジー	株式会社 北九州CSK	プラザ アセット マネジメント 株式会社
スーパーソフトウェア 株式会社	株式会社 CSKマーケティング	プラザ キャピタル マネジメント 株式会社
株式会社 福岡CSK	株式会社 ベリサーブ	CSKファイナンス 株式会社
株式会社 北海道CSK	株式会社 ISAO	株式会社 クオカード
CSK SYSTEMS(SHANGHAI) CO.,LTD.	ビジネスエクステンション 株式会社	株式会社 CSK-IS
株式会社 CSK-ITマネジメント	株式会社 CSKプレッシャード	株式会社 CSKアグリコール
株式会社 CSKシステムマネジメント	CSK SYSTEMS DALIAN Co.,LTD.	東京グリーンシステムズ 株式会社
株式会社 サービスウェア・コーポレーション	株式会社 CSKアドミニストレーションサービス	株式会社 CSKグリーンサービス

株式事項

株主構成 (2008年9月30日現在)

発行可能株式総数	298,000,000 株
発行済株式総数	80,290,414 株
株主数	57,251 名

所有者別分布状況



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
定時株主総会の基準日	毎年3月31日
期末配当金支払株主確定日	毎年3月31日
中間配当金支払株主確定日	毎年9月30日
株主名簿管理人	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区八重洲二丁目3番1号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物の発送先 及び連絡先	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部 (住所変更等用紙のご請求) 0120-175-417 (その他のご照会) 0120-176-417
同取次所	住友信託銀行株式会社 本店及び全国各支店
公告方法	電子公告の方法により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって 電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。 電子公告アドレス: http://www.csk.com/ir/information/epn/index.html

【株券電子化後の株式に関する届出先およびご照会先について】

- ・平成21年1月5日に株券電子化となります。その後のご住所変更等のお届出およびご照会は、株主様の口座のある証券会社宛にお願いいたします。
- ・株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていない株主様には、株主名簿管理人である上記の住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といえます)を開設いたします。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話照会先にお願いいたします。
- ・特別口座に登録された株式についての、株主様の口座への振替請求、単元未満株式買取(買増)請求等の各種ご請求やお届出につきましては、平成21年1月26日以降にお手続きが可能となりますので、ご注意ください。

【株券電子化前後の単元未満株式の買取・買増請求のお取扱いについて】

- <買取請求> 特別口座の株主様につきましては、株券電子化の施行日(平成21年1月5日)から平成21年1月25日まで、受付を停止いたします。また、平成20年12月25日から30日までに請求をいただいた場合は、代金のお支払は平成21年1月26日以降となります。
- <買増請求> 平成20年12月12日から平成21年1月4日まで、受付を停止いたします。また、特別口座の株主様につきましては、株券電子化の施行日(平成21年1月5日)から平成21年1月25日まで、受付を停止いたします。

単元未満株式について「ほふり」を利用されている株主様につきましては、上記取扱と異なりますので、お取引の証券会社へお問い合わせください。

2009年3月期中間配当の見送りおよび期末配当について

当社は、今期中間配当の実施を見送ることいたしました。また、期末配当につきましては現時点では未定とし、実施の可否および配当金額につきましては、今後の状況を見極め、改めて公表申し上げます。

詳細につきましては、CEOごあいさつP.3～4に記載いたしております。



2008年冬号(12月発行)
株式会社CSKホールディングス 広報室
〒107-0062 東京都港区南青山2-26-1
CSK青山ビル
TEL 03-6438-3051 FAX 03-6438-3054 <http://www.csk.com/>

記載されている製品、サービス名称、社名は該当する各社の商標または登録商標です。
0812.640@61

